



湖南ギターアンサンブル

第17回さざなみコンサート

第42回滋賀県芸術文化祭参加事業

2012年 10月 27日(土)

午後6時 開演

栗東芸術文化会館さくら中ホール

ご挨拶

本日はご来場くださりましてありがとうございます。
湖南ギターアンサンブルは今年で結成23年を迎え、
この「さざなみコンサート」も17回目となります。
これだけ続きましたのも皆様のご支援のお陰と深く感謝申し上げます。

今宵、クラシックギターの音色をごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

主催：湖南ギターアンサンブル

URL：<http://homepage3.nifty.com/konanguitar>
毎週土曜日午後1時半から、守山エルセンター、第2
むつみ園で練習しています。

お問い合わせ先：鍋谷英明(代表) Tel/fax 077-552-9228

プログラム

司会 川人千暁

第1部

- 2重奏 ジェラシー (作曲 J. ガーデ、編曲 大谷環) 志村和彦・志村知子
 カッチーニのアベマリア (作曲 G. カッチーニ、編曲 弦太郎) 諏訪サチ子・東郷安弘
 エターナリー (作曲 C. チャップリン、編曲 高坂勝) 高坂勝・藤本久美子
 独奏 舞踏礼讃 (作曲 L. ブローウェル) 塚野研一
 ソレア ポル プレリア (作曲 フスト デ バダホス) 高橋正樹
 朱色の塔 (作曲 I. アルベニス、編曲 阿部保夫・恭士) 一井伸介
 2重奏 コルドバ (作曲 I. アルベニス、編曲 E. プジョール) 塚野研一・鍋谷英明
 3重奏 虹の彼方に (作曲 H. アーレン、編曲 佐野正隆) 黒瀬由紀子・東郷安弘・曾根紀久
 4重奏 カントリーロード (作曲 J. デンバー、編曲 長谷川郁夫) 武村順子・高橋正樹・藤本久美子・内藤悟
 4重奏 涙そうそう (作曲 ビギン、編曲 平倉信行) 小島信之・鍋谷英明・志村和彦・志村知子
 4重奏 (笛・ギター・ベース)
 笛と湖 (作曲 一井伸介)「カルテットEです」 坂井孝之・一井伸介・村井教夫・辻井寿子

休憩

第2部 ギター合奏

- 主よ、人の望みの喜びよ (作曲 J.S. バッハ、編曲 高坂勝)
 愛の挨拶 (作曲 E. エルガー、編曲 高坂勝)
 剣の舞 (作曲 A.I. ハチャトゥリアン、編曲 高坂勝)
 ロンドンデリーの歌 (アイルランド民謡、編曲 佐野正隆)
 真珠採りのタンゴ (作曲 G. ビゼー、編曲 久保公二)
 渚のアデリーヌ (作曲 P. de・センヌヴィル、編曲 佐野正隆)
 間奏曲 (作曲 G. ビゼー、編曲 大橋正子)
 ホタ・アラゴネーサ (作曲 G. ビゼー、編曲 小林敦子)
 コーヒー・ルンバ (作曲 J.M. ペローニ、編曲 加藤繁雄)
 リベルタンゴ (作曲 A. ピアソラ、編曲 平倉信行)
 1st 塚野研一 (パートリーダー)、岡稔、小島信之、志村知子、中村功
 鍋谷英明 (代表)、菰澤勝子、平岡フミ、山口瑞代
 2nd 高坂勝 (パートリーダー)、黒瀬由紀子、志村和彦、諏訪サチ子、曾根紀久、高橋正樹
 東郷安弘、鳥山利晴、村井教夫
 3rd 内藤悟 (パートリーダー)、一井伸介 (コンサートマスター)、武村順子、玉木勝治、藤本久美子、
 油谷由美子
 ベース 辻井寿子 フルート 坂井孝之

【ジェラシー】ヤコブ・ガーデ（デンマークの作曲家。1879－1963）作曲のコンチネンタル・タンゴ。1925年初演。世界的に大ヒットし、100以上の映画の音楽としても使われました。ガーデ没後、印税により「ヤコブ・ガーデ賞」が設けられ、若手音楽家の育成の基金となりました。

【カッチーニのアベマリア】G. カッチーニは、ルネッサンス末期、バロック初期の、イタリアの音楽家です。このアベマリアは、一般にカッチーニの作とされていますが、本人の作ではないという説もあります。アベマリアは聖母マリアへの祈禱を指し、多くの作曲家が同名の作品を残しています。

【エターナリー】チャールズ・チャップリンが監督・主演した映画「ライムライト」（1952年）の主題曲です。米国内では1972年に公開され、アカデミー劇音楽賞を受賞しました。大編成オーケストラで演奏される機会が多い曲ですが、ギター2重奏でレガート表現、テンポの揺らぎに挑戦します。

【舞踏礼讃】作曲者のブローウェルは現代キューバを代表するギタリスト、作曲家、指揮者です。この曲は1964年、舞踏家ルイス・トラパガの為に書かれた作品で、「レント（ゆっくりと）」と「オブスティナート（執拗に）」の2章からなり、現代ギター音楽の古典といわれる名曲です。

【ソレア ポル ブレリア】フラメンコでソレアレスというリズムに最後ブレリアスがくっついたものをソレア ポルブレリアといいます。同じ12拍でアクセントの位置も同じですが速さがまるで違います。古い形を残している曲で、このまま踊りの伴奏にも使えそうです。

【朱色の塔】アルベニスが作曲したこの作品は12曲から成るピアノ小品集の終曲で、アルハンブラ宮殿の西側に建っている塔のことを意味しています。東洋的なメロディーのため、ギター愛好家が多く演奏します。人によって表現が大きく異なりますが、それが演奏する人の個性が出て良いと思います。

【コルドバ】「朱色の塔」と同様に、多くのピアノ曲がギター用に編曲・愛奏されたアルベニスの作曲によるものです。曲は組曲「スペインの歌」からのもので、早朝の教会の鐘から始まり、日中の喧騒から一日の終わりまでをオリエンタルな雰囲気で綴っています。

【虹の彼方に】ミュージカル映画「オズの魔法使い」で、ジュディ・ガーランドが歌った劇中歌です。ハロルド・アーレンが作曲し、大ヒット、1939年のアカデミー歌曲賞を受賞しました。2001年に全米レコード協会等の主催で投票により選定された「20世紀の名曲」では第1位に選ばれました。

【カントリーロード】アメリカのポピュラーソングで、元のタイトルは『Take me home country roads』（故郷に帰りたい）です。1971年に発売され、日本でも大ヒットしました。ト長調でリズムカルな明るい曲ですが、なぜか日本人はこの曲を聴くと切なくなるそうです。

【涙そうそう】（なだそうそう）は、2000年に発売された森山良子作詞、BEGIN（ビギン）作曲の歌です。BEGINは、沖縄の3人組アコースティックバンドです。曲名の意味は「涙層層」？涙が幾重にも重なって「涙がとめどなく流れる・・・止まらない」そのような感じの沖縄（首里）方言です。

【笛と湖】「カルテットEです」の定番です。作曲者の一井伸介が、笛の坂井さんと知り合ってからその音色の優しさに共感し、琵琶湖の様子を表現しました。少し日本調にして雰囲気を出しています。CDの中でも評判が一番良い曲です。

【主よ、人の望みの喜びよ】J.S. バッハにより1723年に作曲された教会カンタータ「心と口と行いと生活をもって」の第10曲目のコラール合唱曲です。この曲の旋律は聴けば殆どの人が知っているくらい有名な曲で人々の心に平和と安らぎを与えてくれるような素晴らしい名曲です。

【愛の挨拶】作曲者のエルガーはロンドンの郊外ウースター地方の楽器商の息子として生まれ、専門的な音楽教育は一切受けずに独学で作曲を学びました。この曲は彼が31歳の秋に“婚約の挨拶”としてピアノの生徒だった8歳年上のアリスと言う女性に贈られた曲です。後に2人はアリスの家族の反対を乗り越えて結婚しました。大変仲の良い夫婦で、作詞の才能もあったアリスの詩によるいくつかの音楽作品もあります。

【剣の舞】ハチャトゥリアンのバレエ組曲「ガイヌ」中の1曲です。当初はこの曲は組曲に含まれておらず、初演前に「クルド人が剣を持って舞う戦いの踊り」を加えることになり、急遽書き足されたものです。曲の強烈なインパクトゆえに、皮肉にも一番有名になりました。

【ロンドンデリーの歌】アイルランド民謡。曲のタイトルは、北アイルランドの州の名に由来します。この美しい旋律が初めて広く世間に紹介されたのは、1855年、ペトリーという人によるものです。様々な歌詞によって歌われ、特に、「ダニー・ボーイ」のタイトルのものが有名です。

【真珠採りのタンゴ】ビゼーのオペラ曲の一つで、真珠採りという題名でしたが、アルフレッド・ハウゼ楽団が演奏して有名になり、すっかり「真珠採りのタンゴ」として広く知られるようになりました。ギターアンサンブルでもよく取り上げられます。単純なメロディーの連続の中に、うっとりとした雰囲気を醸し出します。

【渚のアデリーヌ】原題はフランス語で「Ballade pour Adeline」つまり「アデリーヌのバラード」。そしてアデリーヌとは何かというと、この曲の作曲者「ポール・ドゥ・センヌヴィル」の愛娘の名前で、センヌヴィルが彼のお嬢さんに捧げたバラードだったのです。またこの曲を有名にしたのがリチャード・クレイダーマンで1976年、フランスを皮切りに大ヒットしました。

【間奏曲】間奏曲というのは、劇やオペラの幕間に演奏される器楽曲のことですが、名曲も多くコンサートでも単独で演奏されることも稀ではありません。この曲はスペインを舞台にした歌劇「カルメン」からの曲で、演奏会用に編纂された第1組曲からのものです。

【ホタ・アラゴネーサ】「ホタ」はスペイン民族舞曲の1つで3拍子の速いリズムで激しい跳躍を伴う踊りが特徴です。本曲は「スペイン東北部アラゴン地方の舞曲」という意味で、スペインが舞台ですがフランス語によるオペラとしてジョルジュ・ビゼーが作曲した「カルメン」の中の一曲です。

【コーヒー・ルンバ】アルパ奏者のウーゴ・ブランコの演奏で世界的にヒットした曲です。コーヒーをモチーフに作曲されました。実際には曲のリズムはルンバではなく、オルキデアというリズムです。日本では西田佐知子の歌が有名で、後にザ・ピーナッツら多数の人たちがカバーしています。

【リベルタンゴ】バンドネオン奏者であったアストル・ピアソラ作曲のタンゴの曲で1974年の作品です。libertangotという単語は「自由」libertadと「タンゴ」tangoとを合わせて作られた造語です。ピアソラは、強いビートと重厚な音楽構造の上にセンチメンタルなメロディーを自由に展開させています。